

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

5月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.219 2025.5

紹介内容（4/1～4/30）

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - 登 米農改：内ノ目地区担い手法人設立に向けた発起人会が開催されました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・1
 - 登 米農改：宮城県農業大学校生の普及センター訪問に伴う就農支援会議を開催しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - 大 崎農改：水稻乾田直播栽培の播種実演会が実施されました
 - 登 米農改：減農薬・減化学肥料基準の乾田直播栽培技術の確立に向けて可変施肥を実施しました
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・2
 - 亘 理農改：JAみやぎ亘理花卉部会通常総会が開催されました
 - 大 崎農改：令和7年度加美郡りんご協議会総会が開催されました
 - 亘 理農改：亘理・山元果樹産地協議会通常総会が開催されました
 - 仙 台農改：ほうれんそうの高温対策に関する研修会が開催されました
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - 大 崎農改：子実用トウモロコシの播種実演会が実施されました。
 - 登 米農改：小麦赤かび病防除打合会議が開催されました
 - 登 米農改：麦類特定種子生産ほの巡回が行われました
- ⑥ その他・・4
 - 大河原農改：仙南地域の果樹が満開になりました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - 気仙沼農改：気仙沼金のいぶき協議会の令和7年度総会が開催されました
 - 大 崎農改：加美町オーガニックビレッジ宣言

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○内ノ目地区担い手法人設立に向けた発起人会
が開催されました
令和7年4月16日
登米農業改良普及センター



登米市東和町の内ノ目地区では農地整備事業の令和8年度採択に向けて取り組んでいます。地区の新たな担い手として1法人を設立し、農地を集積・集約化するとともに、高収益作物を導入する計画です。

令和7年4月10日（木）に、地区担い手による発起人会が開催され、関係機関を含めて7人が出席し、設立する法人の名称を協議しました。事前に考えてきた名称案を基に活発な話し合いが行われ、最終的には「(株)グリーン cat」※という名称となりました。

今後、6月に予定されている発起人会でさらなる検討を進め、地元説明会への準備を行うとともに、高収益作物の試作を行います。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、内ノ目地区地域営農構想の実現に向けて支援していきます。

※「グリーン cat」は芋虫を意味する「グリーンキャタピラー」の略語で、芋虫が蝶になることになぞらえて、今後法人が発展していくように、また、「キャタピラー」は無限軌道で回り続けるという意味も込められており、本法人が今後も続いていくようにというダブルミーニングとなっています。

②新たな担い手の確保・育成

○宮城県農業大学校生の普及センター訪問に伴う
就農支援会議を開催しました
令和7年4月30日
登米農業改良普及センター



令和7年4月25日に登米合同庁舎会議室において、宮城県農業大学校1年生の農業改良普及センター訪問が行われました。訪問先は各学生の出身地域を所管する普及センターで、登米農業改良普及センターには4人の学生が訪れました。

この普及センター訪問は、毎年行われている行事で、学生が住んでいる地域の農業を学ぶために実施されます。当普及センターでは、登米市、JAみやぎ登米、登米市4Hクラブなどの関係者より、就農する場合はどんな支援策があるのか、青年農業者がどんな活動を行っているのかを併せて紹介してもらっています。

訪れた学生は、水田経営学部2人、畜産学部1人、アグリビジネス学部1人で、それぞれどんな思いで進学したのか、将来の夢や目標について話してもらいました。4人とも少し緊張してはいましたが、しっかりと話してくれた上、逆に質問をしてくるなど活発な意見交換が行われました。

4人中3人は農家出身で、卒業後一度外で働き、いずれ家の農業を継ぎたいと話していました。

非農家出身の学生は、高校時代に牛の飼育に熱中し、もっと牛のことを学ぶために農業大学校に進学したとのことで、将来は就農希望ではないものの、畜産に携わる仕事に就いて牛の魅力を伝えていきたいと熱烈的な農業サポーターになってくれるようです。

将来有望な学生達に関係者一同も安心した様子で、終始和やかな会議でしたが、会議終了後は、「○○ちゃんは、○○さんとこのお子さんだよね～」とか「○○ちゃんはお母さんそっくりだね～」などなど関係者の顔からご近所さんのような気軽さになり学生達に話しかけていました。

普及センターは、今後も農大生たちを含め若手農業者の支援を継続していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○水稻乾田直播栽培の播種実演会が実施されました
令和7年4月9日
大崎農業改良普及センター



令和7年4月8日、JA全農みやぎの主催で、大崎市古川に設置された水稻の乾田直播栽培試験展示場で播種実演会が実施されました。

乾田直播栽培は、種籾を乾田へ直接播種する栽培方法で、育苗や代かきを要しないことによる労力削減や、大豆との水田輪作により基肥を節減する等

様々な利点が見込まれます。

実演会では、播種に先立ち、農研機構東北農業研究センターより播種前の均平・砕土、播種後の鎮圧及び入水前の雑草防除について要点が説明されました。引き続き、パワーハローを用いた砕土、ドリルシーダーによる播種、そして、ケンブリッジローラーによる鎮圧が実演されました。

実演会には管内の生産者の方や県内各地のJA等関係機関の担当者含む総勢約100名ほどが参加し、皆さんの関心の高さが伺えました。

普及センターでは、関係機関と連携しながら水稻乾田直播栽培技術の普及推進と栽培管理技術の定着に向けた支援を行っていきます。

○減農薬・減化学肥料基準の乾田直播栽培技術の確立に向けて可変施肥を実施しました 令和7年4月30日 登米農業改良普及センター



登米地域は環境保全米の作付面積が県内1位ですが、担い手の減少などから面積は減少しています。一方で、省力化技術である乾田直播栽培への取組は増加傾向にあります。現在、直播栽培は、環境保全米の適用とにならないことから、乾田直播栽培で環境保全米の適用を期待する声があがっています。

そこで、今年から普及センターのプロジェクト課題として、水稻乾田直播栽培における減農薬・減化学肥料の基準（農薬成分10成分以下、化学由来窒素6kg/10a）による栽培技術の確立に取り組むこととしています。

4月22日、農機メーカー協力のもと、展示ほ場にて可変施肥を実施しました。可変施肥マップは、栽培管理システムの地力マップをベースに作成しました。展示は生産者自身も初めての作成で、最初は戸惑いもありましたが、慣れると順調に作成することができました。今回使用した散布機は、重複散布を防止できるセクションコントロールという機能がっており、運転席にあるモニターで可変施肥マップのとおり散布されていることを確認することができました。

今後は、展示ほ場の生育調査および栽培管理システムによる生育状況の把握を行い、減農薬・減化学肥料基準の乾田直播栽培技術の確立を目指します。

④園芸産地の育成・強化支援

○JAみやぎ亘理花卉部会通常総会が開催されました 令和7年4月22日 亘理農業改良普及センター



令和7年4月16日に、JA仙台逢隈支店においてJAみやぎ亘理花卉部会第28回通常総会が開催されました。

総会には、8名の部会員が出席し、JA合併に伴う名称の変更をはじめ、すべての議案が承認されました。議事の関連で、市場価格の動向のほか、栽培ハウスの活用、パート人材等の確保など活発に質疑、意見交換がされました。

当普及センターでは、所得向上を目指す部会の取組を関係機関と連携して支援していきます。

○令和7年度加美郡りんご協議会総会が開催されました 令和7年4月25日 大崎農業改良普及センター



加美郡内のりんご生産者14名で組織する加美郡りんご協議会は、毎年現地検討会や先進地視察研修会、せんだい講習会などの調査・研究活動を精力的に行っています。

令和7年4月21日には今年度最初の行事となる総会を開催しました。令和2年以降、新型コロナウイルスの影響で書面決議としていたため、今年度は5年ぶりに会員が一堂に会しての総会となりました。

議事では、令和7年度もこれまでどおりの事業を開催することで承認され、令和7年度の活動がスタートしました。

また、近年春先の気温が高温で推移していることから、宮城県では3月10日から5月20日までを「凍霜害防止月間」※とし、りんごやなしなどの被害防止に向けた対策の徹底を呼び掛けているため、その対策について情報提供を行いました。

普及センターでは、今年度もこれまで同様りんごの生産振興に向け、協議会活動の支援を行っていきます。

※春の気温が高く推移すると、発芽や開花が平年よりも早くなりますが、花が満開の頃に寒の戻りが

あり、りんごで -1.8°C 、なしで -1.4°C 以下に1時間以上遭遇すると果実になる部分が凍ってしまい、果皮にさび状の障害が発生したり、最悪の場合、秋に果実となる部分が脱落して収穫皆無となる被害が発生します。

このような被害を防ぐため、宮城県では、毎年この時期に生産者の方々に注意喚起を行っています。

○亘理・山元果樹産地協議会通常総会が開催されました

令和7年4月30日

亘理農業改良普及センター



令和7年4月22日（火）にJA仙台逢隈統括支店で「亘理・山元果樹産地協議会」の令和7年度通常総会が開催されました。

当協議会は、亘理町・山元町内の生産者組織と両町、農地中間管理機構、JA、当普及センターの7機関で構成され、産地の維持・発展のため、果樹の優良品目や品種への改植、園地整備など国の支援事業を活用し、地域の果樹振興を推進する組織で、令和3年12月に設立されました。過去3年間の実績として、4経営体が果樹経営支援対策事業及び果樹未収益期間支援事業を活用して「いちじく」や「りんご」の新・改植を行っています。本年度も新たに1経営体が事業申請予定です。

普及センターでは、関係機関と連携して、果樹産地の育成に向けた支援を行っています。

○ほうれんそうの高温対策に関する研修会が開催されました

令和7年4月30日

仙台農業改良普及センター



令和7年4月8日にJA新みやぎあさひな大郷支店において、ほうれんそう部会大郷支部の研修会が開

催され、主力の部会員9名が参加しました。

研修会では、普及センターが講師となり、「ほうれんそうの高温対策」をテーマとして、高温期の生育障害の要因や日射量などの気象条件を踏まえた対処方法について解説しました。あわせて、これまで遮光資材として一般的に使われていた黒寒冷しゃに代わる、機能性が付加された遮光・遮熱資材について光透過の特性や適切な使用法などを紹介しました。

特に令和5年から6年の夏季は以前よりかなり高い気温で推移しており、生産現場では初期の発芽不良や生育停滞が散見し、大幅に生産量が低下したハウスも見受けられています。今回の研修会を契機として、遮光・遮熱資材を活用した高温対策が導入されることで、高温期の生育障害の軽減および出荷量の増加が期待されます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○子実用トウモロコシの播種実演会が実施されました。

令和7年4月21日

大崎農業改良普及センター



令和7年4月18日にJA古川の主催で子実用トウモロコシの播種実演会が実施されました。

生産者や関係者、約80名が参加し、真空播種機を用いた播種作業を見学しました。

実演会では、播種の実演に加え、農研機構東北農業研究センターが取り組んでいる、高収益・低投入型ブロックローテーション体系の構築に向けたプロジェクトについて説明がありました。また、種苗会社からは収量向上に向け、適切な苗立本数を確保するために適正な播種深を徹底するように、呼びかけられました。

普及センターでは引き続き、関係機関と連携しながら水田輪作体系における各種技術の普及や子実用トウモロコシの栽培管理技術の定着に向けた支援を行います。

○小麦赤かび病防除打合会議が開催されました

令和7年4月22日

登米農業改良普及センター



令和 7 年 4 月 16 日に登米市豊里地区の令和 7 年産小麦赤かび病防除打合会議が開催されました。当日は、生産者、JA みやぎ登米、防除会社が出席し、普及センターからは麦の生育状況と赤かび病防除のポイントについて説明しました。

赤かび病を防ぐためには、開花期に最初の防除を行うことが重要なことから、事前に各生産者のほ場にて幼穂長を測定し、開花期を予測して防除時期を検討しました。

また、今後 1 か月の平均気温が高くなることが予想されていることから、ほ場を見ながら追肥を適期に実施することで、収量・品質の向上につながることもあわせて説明しました。

普及センターでは、今後も登米管内の麦類の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○麦類特定種子生産ほの巡回が行われました 令和 7 年 4 月 23 日 登米農業改良普及センター



登米管内には小麦 2 品種、計 8.4ha の採種ほ場が設置されています。

令和 7 年 4 月 15 日に（公社）みやぎ農業振興公社主催の麦類特定種子生産ほの巡回が実施され、生産者、関係機関約 15 名が出席、各品種 1 ほ場の生育を確認しました。

巡回したほ場では、幼穂が 3～5 mm 程度に伸びていることが確認され、5 月上旬には出穂期に達すると推定されました。両ほ場とも鳥害や風害を受けた部分があるものの、4 月上旬の追肥により生育の改善が見られました。試験場や J A 全農みやぎの担当者からは、「排水もよく、ほ場の管理は良好。今後も適期に追肥や防除を行ってほしい。」との講評をいただきました。

普及センターでは、今後も小麦種子の収量と品質の確保に向けて支援を行ってまいります。

⑥その他

○仙南地域の果樹が満開になりました！ 令和 7 年 4 月 28 日 大河原農業改良普及センター



仙南地域は果樹の生産が盛んな地域です。今年は、今のところ懸念されていた凍霜害がみられず無事に開花を迎えました。

果樹の生育は昨年より遅いものの、平年より早く進んでいます。気象庁の 1 か月予報によると、今後の気温は平年並み、もしくは平年を上回る予報が出ており、生育の進行が更に早まる可能性があります。

大河原農業改良普及センターは、生育ステージに応じた薬剤散布や管理作業を指導する等引き続き果樹の安定生産に向けて、支援を行ってまいります。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①環境に配慮した持続可能な農業生産

○気仙沼金のいぶき協議会の令和7年度総会が開催されました

令和7年4月18日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼金のいぶき協議会の令和7年度通常総会が、令和7年4月8日に気仙沼合同庁舎を会場に開催されました。同協議会は宮城県が育成した玄米専用品種「金のいぶき」のブランド化を推進するために令和5年4月に設立され、気仙沼市の金のいぶき生産者、卸小売業者、気仙沼市産業部農林課、JA新みやぎがメンバーとなっております。

総会では、令和7年度も引き続き、マイクロプラスチック海洋汚染を防止し、プラスチックコーティングされた肥料を使用しない環境に配慮した「金のいぶき」の栽培に取り組むとともに、新たな製品開発に取り組むことを確認しました。

普及センターでは、地域の新たな特産品として、稲作経営の発展につなげていけるよう、引き続き支援を行っていきます。

○加美町オーガニックビレッジ宣言

令和7年4月22日

大崎農業改良普及センター



加美町では、令和7年4月21日、町内で有機食材を提供する農家レストラン「ふみえはらはん」において、石山町長による「加美町オーガニックビレッジ宣言」が行われました。宣言式には、「有機農業産地づくり推進事業」に取り組むため、令和6年度に生産者や流通事業者、関係機関等で組織した有機農業推進協議会のメンバーが出席しました。

初めに、「加美町有機農業実施計画」の説明があり、5年後に目指す目標として、有機農業への取組面積を現況53ha(R5)から60ha(R11)とすることを表明しました。生産段階では、有機農業の普及に向けた研修会、アイガモロボの検証と導入助成、有機認証取得経費の支援に取り組むほか、流通、加工、消費段階としては、やくらい土産センター等における有機農産物の販売促進や、販促イベント等への出店、加工・流通事業者と連携した販路拡大、学校給食への有機米提供を行うこととしています。

記念撮影の後に、囲炉裏を囲んで有機米ササシグレを用いたおにぎりの試食会が行われました。

大崎普及センターでは、加美有機農業推進協議会の一員として、引き続き「加美町有機農業実施計画」の実現に向けて支援を行ってまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>

〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>

〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>

〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>

〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>

〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>

〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>

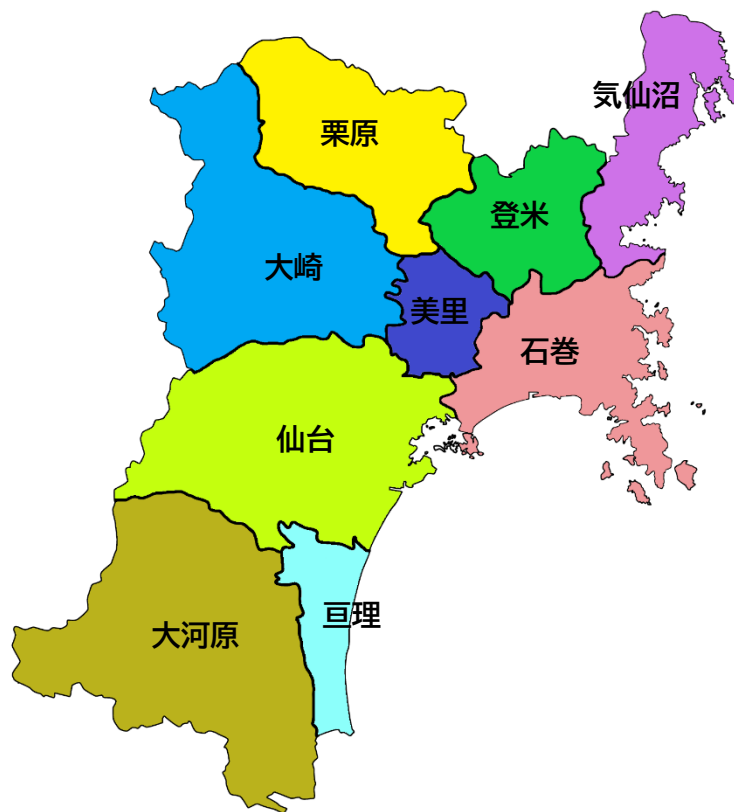
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>

〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>

〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



* 各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.207

発行日:2025 年 5 月 22 日

発 行:宮城県農政部農業振興課

編 集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp